



神奈川大学：人間科学学部教授
松本安生様

お礼とご報告

～ゾマホンのふるさと、ベナンのいろいろ～

*ゾマホン氏 在日ベナン大使館大使 ビートたけしさんの付き人として有名でした。

ベナン(正式にはベナン共和国)はアフリカ大陸西部の国で、西はトーゴ、北はブルキナファソ、ニジェール、東はナイジェリアと国境を接し、南にはギニア湾に臨みます。気候は2地域に分かれ、南部では雨季乾季共に2回ずつ、北部は1回ずつ。17世紀にはフォン族がダホメ王国を建設。奴隷貿易などで多くの黒人が船に乗せられ、ブラジル、フランスに運ばれました。農業を主とし、パーム油、落花生、綿花などが盛んです。言語はフランス語ですが、フォン族、ヨルバ族など、細分化すると46民族ごとの言葉が根強く残っています。主食はとうもろこし粉を原料とするパット、アカサ、ヤムイモをついたイニヤムピレ、豆とご飯を炊いたアタシなどがあります。宗教はキリスト教が多いですが、伝統宗教のブドゥー教、イスラム教を信仰する人もいます。小学校教育が無料化され、小学校には生徒がたくさん。多いクラスだと80人近くの子どもを1人の先生が見ることもあります。



* 素敵な絵本たちを ありがとうございます *

この度は素敵な絵本を寄贈していただきまして、本当にありがとうございます。

私は2014年7月よりベナンに派遣されており、加野ひとみと申します。ベナンの南東に位置するポベ視学官事務所(日本での教育委員会にあたります)に配属され、管轄の小学校・幼稚園を巡回し、保健衛生、情操教育、学校菜園の普及のお手伝いをさせていただいております。今回寄贈していただいた絵本は任地で活動しているONGに届けさせていただきました。細部まで丁寧に書かれた絵や、色彩に富んだカラフルな絵本に触れることが少ないベナン人。絵の綺麗さ、可愛さに感動していました。本当に素敵な贈り物をありがとうございました。



初めて出会う絵本

現在一緒に活動しているONG(ベナンに伝わるゲームや遊びを伝承する活動)と近くの幼稚園に行き、寄贈していただいた絵本の読み聞かせ・ゲーム・折り紙遊び(サンタ作り)を行いました。

カラフルな色彩やかわいい絵に子どもたちは大興奮。絵を指さしながら、楽しそうに現地語を話していました。絵にはフランス語・現地語のナゴ語でスペルを書きました。認知の人の多くはフランス語やナゴ語を話せても文字を書く事は苦手です。大人でも現地語をかける人は少ないです。絵と文字と発音が一致することで楽しく文字の学習、単語の習得がはかれたら良いな、と思います。





xy-nyzzz!

Joyeux
Noël!

Mer ci
ありがた
beau coup

